

# 科学史技術史通信

特定非営利活動法人  
科学史技術史研究所

田中・山崎・飯田・菊池・道家文庫

No.13

2010.12.20

165-0027 東京都中野区野方1丁目29番1-B101

Website URL: <http://ihst.jp/> e-mail: [ihst@ihst.jp](mailto:ihst@ihst.jp)



Stockholmのヴァーサ号博物館・軍事大国スウェーデンの Gustaf II・アドルフによって建造(1628年竣工)。強力な戦艦目的に、砲甲板を2つに増やし64門の大砲をもつ艦装のため重心が高くなり、処女航海でストックホルム沖で僅かな風で沈没。1956年引き上げられる。95%がオリジナル材料を用いて修復されているので当時の造船技術をよく伝える。写真は模型(実物写真は、<http://vasamuseet.se/en/>などで見てください。いずれ又ここでも紹介します)。

## 科学技術と科学・技術をめぐって

高橋智子

日本学術会議の提言と勧告

すでに多くの方が知っていると思いますが、日本学術会議は2010年4月5日に「日本の展望 学術からの提言2010」を公表しました。これは「21世紀の人類社会および日本社会にとって喫緊の課題である持続可能な社会の構築を展望して、人文・社会科学、生命科学および理学・工学の全ての諸科学を包摂する「学術」がその総合力をどのように発揮すべきであり、することができるかについての学術からの提言」であると言えます。日本学術会議は2005年に創設以来の7部制(第1部文学、哲学、教育学・心理学、社会学、史学、第2部法律学、政治学、第3部経済学、商学・経営学、第4部理学、第5部工学、第6部農学、第7部医学、歯学、薬学)から三部制(第一部人文・社会科学、第二部生命科学、第三部理学・工学)に編成替えされており、

(2頁 左欄に続く)

お知らせ・・・御茶の水ゼミ特別講座・・・

## 原爆はこうして開発された

講師 日野川静枝(拓殖大学教授・科学史技術史研究所研究員)

軍産学複合体の形成過程を研究されている日野川先生による、特別講座です。不況を軍需産業で乗り切ろうとする傾向、学問が軍需産業に利用されてしまう可能性を、歴史的な検証を基にお話して下さい。



(講義概要)

1. 原爆開発の起源をめぐって  
ウランウム諮問委員会の設置から解散まで  
アメリカにおける科学・技術の戦時動員体制づくり、他
2. イギリス起源のウラン爆弾構想とアメリカ起源のプルトニウム爆弾構想  
軍事機密下の基礎研究—原爆原料プルトニウムの可能性—  
プルトニウム大量生産の実現可能性とマンハッタン管区の新設  
戦後の原子力政策とプルトニウム爆弾づくり、他
3. 原爆投下方針の推移と科学者の抵抗  
対日投下の英米合意—1944年9月19日、ハイドパーク協定—  
科学者たちによる対日無警告投下反対の運動  
—L.シラードやJ.フランクの場合—  
戦後、科学者の組織づくり—1945年11月、原子科学者連盟の結成—、他

日時 2011年1月29日(土) 13時～17時(12時半開場)  
場所 秋葉原ダイビル12階 首都大学東京 会議室  
(JR秋葉原駅下車徒歩1分 降り口は「電気街口」)  
参加費 500円(資料代)  
主催『資本論』現代的展開講座御茶の水ゼミ特別講座実行委員会  
後援 科学史技術史研究所  
連絡先 東京学習会議 TEL:03-5842-5646 FAX:03-5842-5647  
gakusyuu@livedoor.com

多数のご参加をお待ちしております。16時半～は質疑応答の時間になります。

-----切り取り-----

2011年1月29日 御茶の水特別講座申し込み書  
申込日 月 日  
氏名 \_\_\_\_\_  
連絡先住所 \_\_\_\_\_ 電話番号 \_\_\_\_\_

.....

ここでは、2 頁以下は目次タイトルをご覧になれます。記事内容は、会員配布、もしくは実費頒布の印刷体でお読み下さい。

## 技術政策の貧困

### —「科学技術」と「科学・技術」によせて—

木本忠昭



セントルイス万国博覧会の Liberal Arts 館  
本研究所に、この World' s Fair の Official 写真集があるが、その中からの一葉。この Liberal Arts 館の展示内容は、この写真集では未詳。

## ◆◆◆ 本研究所蔵書から ◆◆◆

富田仁『日本の産業技術事始め』ダイヤ  
モンド社、1980年8月

和田正法



## 科学史研究 第三号

昭和十七年十一月

日本科学史学

.....

... 目的の一つに「七、科学史図書館の設立」が掲げられていた。これは現在現在の科学史学会の目的からは消えてしまっている。

### 近年の科学史技術史書紹介

欧米単行本のタイトルを紹介.....

### 研究所(史資料)の利用方法

#### 1. 会員の場合

- 1.1 会員は、自由に、いつでも利用できます。
- 1.2 会員は、各自利用するための手段を自己管理のもとに有することができる。(最初は、方法について理事会と連絡を取ってください。)

#### 2. 一般市民の場合

- 2.1 一般市民も研究所の史資料を閲覧利用できます。
- 2.2 利用方法は、当面、メール [ihst@ihst.jp](mailto:ihst@ihst.jp) もしくは、電話(080-5901-0730)、あるいは手紙等で利用時間を予約し、事務局と利用時間を打合せて下さい。

### 史資料の閲覧方法

#### 1. 会員

- \* 研究所での自由な閲覧
- \* 館外帯出・・・二週間、他に希望者なければ一週間毎延長可 ただし 一ヶ月まで。
- \* 遠方借り出しは、[ihst@ihst.jp](mailto:ihst@ihst.jp) また郵便でお申し込み下さい。ただし、費用は利用者負担。

#### 2. 非会員(一般市民)

- \* 研究所での利用が可能です。
- \* 利用日は、[ihst@ihst.jp](mailto:ihst@ihst.jp) もしくは電話 080-5901-0730 で打ち合わせてください。

(研究所での懇親会(2010. 7. 31 総会后。撮影・梶)

研究所からのお知らせ..... 4 件